



# 村小だより

平成 29 年 10 月 13 日発行

## 平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果について

校長 鈴木 正美

4月に実施された、小学校6年生を対象とした、平成29年度全国学力・学習状況調査結果とその考察についてお知らせします。平成26年度から、「学力や学習状況の結果を分析し、その後の教育に生かす」ことをねらいに結果を公表しています。

### 【平均正答率の比較】

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国に比べ	下回っている	下回っている	下回っている	下回っている

※A問題は、主として知識に関する問題、B問題は主として知識を活用して考える問題です。

### 【学力の結果と分析】

国語A、B、算数A、Bともに全国平均正答率（以下「全国」）を下回る結果となりました。学力の定着が弱いという傾向にあると言えます。

国語の各領域では、国語Bの「話すこと・聞くこと」が全国を上回りましたが、その他の領域では、国語A、Bとも全国を下回りました。「読むこと」「書くこと」を問う問題では、正答率が低く、文章を記述する問題では無回答率が高いことも分かりました。

算数の各領域では、算数A、Bとも全国を下回りました。選択式問題では正答率が全国を超えたものもありましたが、「数学的な考え方」を問われる問題では、正答率が低く、かつ無回答率が高いという結果でした。

### 【学習状況の結果と分析】

同時に実施した学習状況調査（児童アンケート）結果では、全国平均を大きく上回った項目としては、「5年生まで受けた授業で、話し合い活動に進んで取り組んでいた。話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。自分たちで課題を決めて情報を集め、発表するなどの学習活動に進んで取り組んできた。」や「今住んでいる地域の行事に進んで参加している。」などがありました。

逆に下回った項目は、「毎日同じくらいの時刻に寝ているか。」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解きたいと思う。」「算数の問題で解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか。」などでした。

### 【結果をふまえた主な対策】

- ・「やってみよう」「なぜだろう」「できるようにになりたい」という児童の思いや願いを引き出す教材や問題を工夫し、児童が主体的に学習に取り組めるよう、全校体制で授業改善に努めます。
- ・補充学習の時間を計画的に位置付け、級外職員も加わって学級担任と連携しながら、児童の学力実態に応じたきめ細かい少人数指導を強化します。
- ・ご家庭との連携・協力の下、家庭学習強調週間を実施し、家庭学習の習慣化やノーメディアに関する取組を進めます。

今後とも、変わらぬご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。